



ジュゴン Vol.102

ちゃんぷるニュース

SDCC 2019. 1. 29
Save the Dugong Campaign Center

CONTENTS

- 2/3 情勢・海を越えた支援の輪を各地域へ
- ジュゴン訴訟・控訴審の動き
- 11月政府交渉の報告
- 4/5 ジュゴン訴訟報告集会
- ゲート前行動とカヌー隊
- 6/7 わんさか通信★ジュゴンのわ
- じゅごん茶話会のご案内



2019年の年頭にあたり、SDCCのさらなる発展と、皆さまの誇りある幸せを祈ります。今年も、辺野古の浜の「初興しい（はちうくしー）」で清々しい初日を拝し、「積年の努力を实らせよう」と龍宮神に誓いました。可能な限り、ジュゴンを保護することの大切さを国内外に訴え、安倍政権の辺野古新基地建設を断念させたいと存じます。

私たちは2001年にSDCCを立ち上げて以来、署名運動に取り組み、年二度の政府交渉を行い、四年に一度の国際自然保護連合会議にも参加し、沖縄のジュゴンを保護する為の努力を重ねて参りました。そして、ジュゴンを祀るべく私は、ジュゴンの歴史的文化的意義を歌にして訴え、また、「龍宮神黙示録」を出版し、米国における沖縄ジュゴン訴訟に対処する努力も重ねて参りました。しかし、日本政府はジュゴンを保護するどころか、辺野古新基地建設を強行してきたのです。

年頭の辞

沖縄本島北部のジュゴンは、嘉陽沖を拠点とする雄のAと、古宇利島周辺にいる雌のBと、大浦湾にいる子供のCと、三頭が確認されるのみでした。しかも、2015年工事開始以来、子供のCが行方不明となり、その上、昨年9月の台風の後から父親Aも見えなくなりました。これは、埋立て工事によって、明らかにジュゴンが絶滅に追いやられたことを示しています。

しかし政府は、沖縄県と交わした留意事項も法律もことごとく無視し、南西諸島の軍事基地化と辺野古新基地建設を同時進行させ、それによって、明治150年悲願の「琉球処分」を完遂させ、その上で天皇の代替わりを国民挙げて祝い、その勢いで9条を破壊し、戦前の美しい国にするつもりでいます。菅官房長官が「辺野古基地建設は国民の為に進めます」と言ったのは本音だということです。

斯くなる上は、フェイク国家の嘘を暴くしかありません。天皇が持つ八咫瓊勾玉がジュゴンの霊玉であることを伝えねばなりません。私は、その為に、日本におけるジュゴン信仰のルーツを古代甲骨文字に辿り、「琉球文明の発見」を出版しました。これまでのSDCCの運動の正統性を伝える内容になっていますので、参考にして下さい。今年は亥年で政変の年。安倍晋三の猪突猛進に負けないうちバラナヤーサイ！

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC 共同代表）

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp

12/14 辺野古の浜でのオール沖縄主催の抗議集会(5面)



初興しい 海を守る決意新たにカヌーも辺野古の海へ (巻頭言)

情勢

海を越えた連帯を！ 辺野古埋立阻止にむけて



「米軍普天間飛行場の名護市辺野古の移設の賛否を問う県民投票」（以下、県民投票）が2月24日に行われます。沖縄市など5自治体、県内有権者の3割が投票できない事態になっています。一方、ホワイトハウスへのインターネット署名（「県民投票までは辺野古埋め立て工事の中止を」）が1カ月で20万筆を超えて、米政府の見解を求めています。本土の世論も変わってきています。「土砂投入」に反対60%、賛成26%。「対話は」不十分76%、十分11%（朝日新聞12/15, 16調査）と、安倍内閣の強権的な進め方に批判が高まっています。12月20日堺市議会では「国と沖縄県との誠実な対話を求める意見書」が賛成多数（賛成26、反対19）で採択されました。「地方自治守れ」の声（請願署名9221筆）が大阪維新の会をも巻き込んでいます。県民投票権を5市長が否定することは、憲法に認められた「法の下での平等」や「表現の自由」を否定する行為です。許してはなりません。



ジュゴン訴訟控訴審が1月2日、サンフランシスコで開かれました。原告の米生物多様性センターは「新基地建設が残酷な環境破壊であり、文化的にも重要なジュゴンを絶滅にさらせば米国の国際的な評価を永遠に汚す」と緊急声明を発表（12月12日）。公判では、国家歴史保存法にあるジュゴンへの影響について関係者との協議（考慮の手続き）をおろそかにしていることや、ジュゴンの行方不明などの事実を無視した地裁判決の問題点を指摘しました（詳細は別稿）。次回は2月1日、国防総省の反論です。控訴審で「考慮の手続き」をやり直す判決が出れば、埋立て工事中止は可能となります。2月1日国防総省の反論をふまえて、スタッフが訪米します。米国政府の独立機関でジュゴン保護に係る「海洋哺乳類委員会」と、国家歴史保存法に係る「国家歴史保存諮問委員会」に、辺野古埋め立て工事がジュゴンに与えている影響を説明するためです。ジュゴン訴訟支援の輪を広げましょう。地方自治守れの声を各地域で上げましょう。

（1月16日記）

（事務局 蛭川義章）

11月政府交渉の報告～埋立て阻止・ジュゴン訴訟控訴審にむけて

安倍内閣が辺野古埋め立て土砂投入を急ぐ中で、昨年11月30日に防衛省、環境省、外務省交渉を持ちました。

防衛省交渉では、沖縄県からの協議や指導を無視し工事を強行していることを厳しく抗議しました。次に、ジュゴンC（辺野古～古宇利島に生息）、ジュゴンA（嘉陽沿岸）の行方不明は「埋め立て工事の影響である」と追及しました。防衛省は航空写真に印をつけただけの「新しい食み跡」を示して「ジュゴンAは生息している」と居直りましたが、食み跡の写真など科学的な根拠を示すことはできませんでした。また、海草藻場の移植の第1候補・豊原地先はジュゴンが好むウミヒルモには不適當であることを防衛省も認めています。だから、瀬高や嘉陽も候補に挙げているのですが、工事現場やジュゴンAの生息地に近いことが問題になっています。まず、ジュゴンの餌場の保全を検討すべきです。

環境省では、署名「沖縄のジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナを守ろう」7625筆（累計19364筆）を提出しました。防衛省の出向職員が参加していたので、辺野古埋め立てについては環境省の率直な意見は聞けませんでした。「やんばるの森」の2018世界自然遺産登録申請はIUCNの登録延期勧告で取り下げ、2020年登録に向け今年1月末に再申請します。IUCNから指摘された「北

部訓練場の返還地を国立公園にしましたが、土壌汚染処理など多くの問題があります。日米間で世界自然遺産地域の適切な保全・管理を図るために、北部訓練場などの影響をどのように軽減するのかとの追及に、「1月末の推薦書で明記できるように頑張る」との決意を引き出しました。今後の運動を進める梃子になるのではないかと考えています。外務省では、日米地位協定改定について議論を集中しました。昨年6月にあった名護市数久田地域の民家での銃弾被害の事例などを上げながら、「担当として現場を歩き住民の声を聴いて、省としての意見をつくることを求めました。

（事務局 蛭川義章）



環境省で職員に署名を手渡す海勢頭豊代表（右）



ジュゴン訴訟：控訴審の動き



2019年1月2日、米国ジュゴン訴訟の原告側は、第9巡回連邦控訴裁判所に Opening Brief(書面)を提出しました。昨年8月の連邦地裁の判決を不服として原告が起した控訴裁判。米国司法における辺野古基地建設阻止を目指したジュゴン訴訟の最後となる動きが注目されます。

原告が控訴裁判所に求める判断は以下の通りです。

1) 国防総省は、地域コミュニティのメンバーや環境保全団体などと協議を行っておらず、国家歴史保存法の402条に違反していると判断すること。2) 基地建設によるジュゴンへの悪影響はないとする国防総省の「報告書」の結論を恣意的、専断的であり、法で求められた手続きに反すると判断すること。3) 国防総省の「報告書」を無効とすること。4) 原告が要求した工事の差し止めについて連邦地裁に考慮するように差し戻すこと。地裁での議論を踏襲した要求となっています。

今回の書面の特徴としては、これまで「原告(plaintiffs)」としていた表現を community members(地域のメンバー)として表現し、より国家歴史保存法が求める地域との協議が不履行であることを強調していること。また、ジュゴンは工事の影響から自ら逃れていく(よって影響はない)という国防総省の主張に対して、その行動の変化自体がジュゴンへの悪影響となるという主張を、米国海洋哺乳類保護法を用いて議論していることなどがあげられます。

しかし以前から指摘しているように、今回の書面の議論も、国防総省が提出した「行政記録」に含まれる2014年4月までの文書や資料に基づいたものとなっています。裁判の仕組み上、工事開始以降、ジュゴンの個体Cが沖縄で確認できていない、大浦湾でもジュゴンが確認できていないことには言及できていません。決定的事実を提示できない、もどかしい状況です。また、2017年度に第9巡回控訴裁判所が判断した案件において、控訴した側が勝った判決(破棄)は10.5パーセントであり、統計的にも厳しい結果が予想されます。

それゆえ、米国政府の行政(海洋哺乳類委員会や国家歴史保存諮問委員会)や立法(連邦議会)、そして国際世論にジュゴンの危機的状況を訴え、司法(控訴裁判所)がその事実を考慮しなければならない状況を作りあげることが必要です。

ジュゴン訴訟の今後の日程としては、2月1日に国防総省からの Answering brief(回答書面)が提出され、必要であれば、更なる書面の提出や hearing(公開審理)が行われます。しかし控訴裁判所が、今回の書面のやり取りで十分だと判断すれば、それに基づいて判断が下されます。

時間的にも厳しいものがありますが、ジュゴンの危機的状況を国際的に伝えていくキャンペーンをSDCCとしても強化させていきましょう。(国際担当 吉川秀樹)

2020年世界自然遺産登録の再申請～オスプレイ飛行訓練の中止を

1月22日、政府は「奄美大島・徳之島・沖縄島北部および西表島」を世界自然遺産登録候補として再申請することを閣議了解しました。2月1日の締め切り日までにユネスコ世界遺産センターに推薦書を提出し、来年の夏までIUCNの再審査を受けることとなります。2018年世界遺産登録申請がIUCN(国際自然保護連合)の評価で「記載延期」(推薦書の再提出後、約1年半をかけて再度諮問機関の審査を受ける必要がある)となり、日本政府が取り下げたからです。

IUCNは勧告で、①沖縄県北部で返還された米軍の北部訓練場の森林が保全対象とされず、分断された小さな推薦地であることや、②絶滅危惧種の状態・動向、および人為的影響及び気候変動による影響に焦点を当てた、総合的モニタリングシステムを完成することなどと批判しています。そこで、環境省は再申請にあたって昨年6月、米軍北部訓練場の跡地を含む3700haを「やんばる国立公園」に急遽編入したのです。しかし、ノグチゲラやヤンバルクイナに

影響を与えるオスプレイの訓練問題が残っています。昨年11月の政府交渉でも私たちはこの点を追及しました。環境省は「日米間で情報共有や外来種対策を共同で進めることを包括的管理計画に明記した」(琉球新報1月18日)と報道されていますが、今回の推薦書でどのように記載されているかを注視しなければなりません。(事務局 蛭川義章)



首都圏

ジュゴン訴訟報告集会と海勢頭豊ライブ♪

12月1日大田区入新井集会所で、「12/1 ジュゴン訴訟報告集会&海勢頭豊ライブ」を開催しました。2018年は、名護市長選挙での「落選ショック」で幕を開け、玉城デニー新知事誕生で盛り返し、そして年の瀬の12月14日土砂投入が噂される中での集会でした。

「辺野古土砂投入」という緊迫した情勢を踏まえて、集会成功のために国会前行動、沖縄関連の集会、ネット掲示板、フェイスブック、はがき送付などあらゆる場で宣伝してきました。その甲斐あって、集会当日は50名を超える方々に参加していただきジュゴン訴訟を知ってもらえるきっかけとなりました。

第一部は、SDCC 国際担当の吉川秀樹さんから「ジュゴン訴訟、今後の展開 私たち一人ひとりができること」と題して報告がありました。ジュゴン訴訟は15年にわたる国際連帯の闘いとして、文化的歴史的存在のジュゴンの保護・保全が焦点となります。

原告の訴えは、NHPA402条(米国国家歴史保存法)が定める「考慮の手続き」を国防総省は履行せよというものです。(考慮の手続きとは、基地建設がジュゴンに与える影響についての協議)しかし判決は、国防総省が2014年4月に提出した報告文書を元に原告敗訴を



SDCC 国際担当
吉川秀樹さん

下しました。2014年に大浦湾で見つかった多数のジュゴンの食み跡や工事の影響で行方不明になっているジュゴンには触れられていません。また沖縄県の「承認撤回」や「玉城デニー新知事誕生」など沖縄県民の民意についても全く考慮されていません。控訴審では、2014年以降の情報、承認撤回やジュゴンの危機的状況を控訴審に持ち込めるかが重要になってきます。米政府の独立行政機関である「海洋哺乳類委員会」「国家歴史保存諮問委員会」への働きかけ、米国の原告・弁護士への支援・連帯を強めようと呼びかけられました。

第二部では、SDCC 共同代表の海勢頭豊さんから「喜瀬武原」「月桃」「辺野古旅情」など5曲が歌われ、あきらめず希望を持って闘い抜こうと決意を固めました。

(首都圏 三村昭彦)



紅型着物のスタッフから
海勢頭豊さんの紹介をしました

海勢頭豊さんは、言わずと知れた平和のための音楽家、そしてSDCCの代表です。そしてもうひとつ、沖縄平安座島の神人でもあります。



海勢頭豊ライブ♪
参加者も一緒に歌いました。

参加者からの感想♪

SDCC 報告会、初めて参加しました。とても分かりやすい説明でした。吉川秀樹さんの報告によれば、訴訟は15年の間に勝ったり負けたり。その中で国際的かつ多様な団体との連携が育まれ、訴訟の妥当性が強固なものになってきているのだなと思いました。「勝ったり」は主張や手続きの正当性ゆえで、「負けたり」は米国国防省側の原告に通知もしないで、争点の「手続きの履行」を完了したと言ってきたり、裁判官が交代して「これ以上関われない政治的問題の法理」とつっぱねたりという

場面で生じていて、いかにも相手の主張には無理があるなとシロウトの私にも感じられるもの。粘り強く訴訟を続けられる原告団のみなさんの姿勢は本当に素晴らしいです。

そして代表、海勢頭豊さんのライブ。感動でした。普段仲間と「未来のための合唱」として国会前で「月桃」も歌わせていただいています。ご挨拶もできました。学びとご縁をたくさんいただいた日となりました。

(首都圏 中尾由美子)

沖 縄

12/14-15 ゲート前行動とカヌー隊

へり基地反対協は12月14日土砂投入を発表した政府に抗議して、「土砂投入を止めよう！行ける方は辺野古へ！」と「土砂投入許さない12・14海上大行動」を呼び掛け、私はカヌー隊として参加しました。辺野古の浜と瀬嵩の浜に分かれ、計47のカヌーが出発し、抗議船7、ゴムボート1とともに海上大行動は行われました。いつ始まるかわからない土砂投入に対して、みんなとともにシュプレヒコールを上げ、プラカードを掲げ続けました。風がきつく、沖縄の日差しの中でも凍えるほど寒かったです。K3護岸の一部に、急に作業員が沢山集まりだしたのが見えました。そして、その場所にダンプカーが土砂を下ろしました。午前11時でした。カヌー隊の半数以上がフロートを越え、少しでも工事現場に近付こうと抗議の声をあげました。私達もフロートの外から、抗議の声をあげました。

昼には、辺野古の浜で、オール沖縄主催の抗議集会が開かれました。反対協代表として浦島さんが「子や孫のためにと頑張ってきたが、こんな日がきてくやしい。が、

20年の頑張りを糧にしなが、我々の負の遺産を残さないように皆さんと頑張りたい。そして本土の皆さんにお願いがあります、政府はセシモニーをやって騙そうとしているということを伝えてください。」等と述べられました。

翌日、玉城デニー沖縄県知事もキャンプシュワブゲート前に駆けつけられました。（関西 岡本藤美）



東 京

3日間連続官邸前座り込み行動に参加して

政府が12月14日に土砂投入工事を行うと表明したことを受けて、「辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会」では、12月12日から、3日連続、抗議の官邸前座り込み行動を行いました。

辺野古で起こっていることを知らない人や、関心のない多くの人に「土砂投入はおかしい」「許さない」という声を広めていくために、連日多くの人が集まり、「沖縄の声を聞け！土砂投入をやめろ！絶対にあきらめない！」と、声を挙げました。

連日のリレートークは、国会議員を始め、参加者の怒りの発言が途切れることはありませんでした。また、有名無名のミュージシャンが次々に三線やギターで歌い、演劇人が踊るなどのパフォーマンスがあり、参加者を勇気付けました。

土砂搬出反対首都圏グループから、「今後の本土からの土砂搬出には、本土の私達が責任を持って阻止して

いこう」と、呼びかけられ、最終日は、議員会館前で500人余が、「辺野古を土砂で埋めるな」と、怒りの拳をつきあげました。

その後も官邸前では、有志が毎日座り込みを続けています。（首都圏 宮城昭子）



大 阪

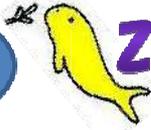
12/13 大阪駅前 キャンドルアクション

12月13日 50名の仲間が大阪駅前に集まって、翌日の辺野古土砂投入にキャンドルを灯して抗議しました。SDCCも参加する、Stop!辺野古新基地建設！大阪アクションの呼びかけです。

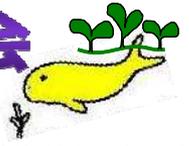


写真 Stop! 辺野古新基地建設！大阪アクション

報告



ZENKO スピーキングツアー大阪集会



12月16日「東アジアに平和を！武力なき平和のためのZENKOスピーキングツアー 大阪集会」にブース参加しました。韓国から星州ソノリでサードミサイル配備に反対している住民団体のカン・ヒョノクさんが参加しました。ヒョノクさんは「戦争の反対は平和というより日常ではないかと思う。穏やかでかけがいのない日常を取り戻す闘いが平和運動であり、沖縄と同じ。」とお話され、ねばりづよく行動する地元のお年寄りの映像を紹介してくれました。

しかし、ムン・ジェイン政権は南北和解の一方で中国を仮想敵とし、アメリカのミサイル防衛を支えるサードミサイル配備をすすめています。ムン・ジェイン政権と今、闘うのはどうなのか・・・という運動圏での意見もあり、なかなか厳

しい。だからこそ沖縄、日本の仲間との連帯が大切と話されました。

ブースでは、伊江島産のイカ墨を使った「イカ墨ジュシーの素」と「黒糖ピーナッツ」が好評でした。商品の売り上げの一部は伊江島わびあいの里への支援金になります。10月30日、韓国大法院は日本の植民地支配時に強制労働をさせられた徴用工4人が、新日鐵住金を相手に損害賠償を求めた訴訟で、新日鐵住金に1人当たり1億ウォン（約1000万円）の支払いを命じました。安倍政権の改憲・戦争路線は韓国、沖縄で強い抵抗にあい、東アジアの平和の流れは押し止めがたくなっています。本土での辺野古埋め立て中止・沖縄ジュゴン保護のとりくみが一層重要です。

(関西 松島洋介)



㊦んさか通信★ジュゴンの㊦

今こそオール沖縄で

2018年が終わる大晦日の夕方に、沖縄では「保守の系譜～政治家・翁長雄志～」と題した1時間のテレビ番組が放送された。改めて翁長さんは亡くなったんだあとと寂しくなった。官房長官に相対し「沖縄県民の気持ちには魂の飢餓感ある」「自ら奪っておいて今日まで県民に大変な苦しみを与えて、沖縄が負担しろ、代替案を持っているのか、日本の安全保障をどう考えているのか、沖縄県の事をかंगाえているのかと。こういった話がされる事自分が日本の国の政治の墮落ではないか。」と話をする映像に私の気持ちはスカっとする。

戦後間もなく周囲に散乱していた遺骨収集に奔走した父（翁長助静）が名付けた「魂魂の塔」（糸満にあり約三万五千はしらが祀られている）。その塔の前で手を合わせる翁長さんの写真が印象的だった。初めての県知事選挙に臨む告示の日の朝、平和を願い遺骨を集めた父の想いを胸に刻むためだった。「平和あっての人間の暮らしということは本当に身に染みていた。だから自分の生命の続く限り辺野古基地反対を唱えたと思うよ。」と叔母が語った。

「小さい時からポスター張りなど色々やってきたんですけど、一番の苦しみは自分で持ってきたわけでもない基地を

挟んで同じウチナンチュが保守だ革新だと相手の事をののり合って、誰か私達が喧嘩しているのを上から見ながら笑っている人がいるんじゃないかと感じた」（故翁長氏談）。その少年時代のつらい記憶が県民の心をひとつにという原点なのだと。

県民投票にむけ分裂する今の沖縄を上から見守っていますか？
(沖縄・小平)



魂魂の塔に手を合わせる故翁長知事（RBC放送より）

今年もじゅごん茶話会をひらきます ～ どうぞご参加ください ～

辺野古の海に土砂が投入され、海草藻場が少しずつ埋められています。「なぜ、、、」胸が押し潰されそうになります。どうしても平然と嘘をつきながら強行できるのだろう。止められないのは、やり切れない、もどかしい、くやしい…。目を背けたくるけど、そういうわけにはいかない。めげていられない、早く止めなくては！

2008年から辺野古に通い、様々な取り組みを続ける中で、自分なりにできることを何かしたいなと始めたじゅごん茶話会。昨年は毎月1回開くことが出来ました。辺野古のことだけでなく、環境問題も日々の暮らしも問題は山積み、そのどれも一人ひとりがもう一步関心を深めることが大事だと思います。伊江島の阿波根昌鴻さんが言われた「平和の武器は学習」「人を幸せにして、自分も幸せになる、そのための平和学習をしましょう」を目標に続けています。

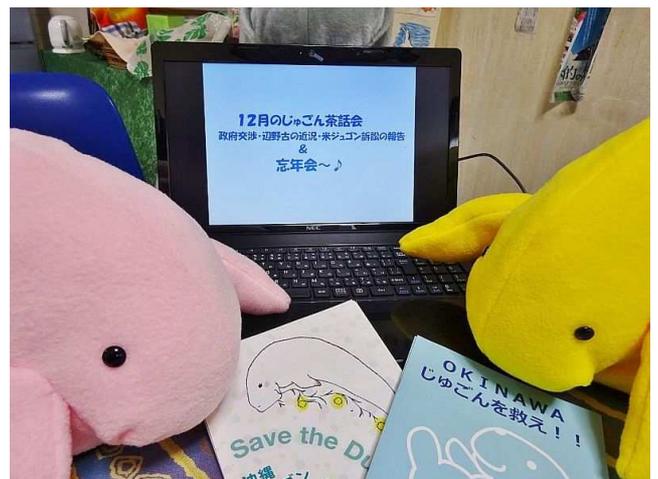
どんなことをしているのかというと、SDCCの活動報告、辺野古の近況、時には環境問題を学び、6月の慰霊の日や8月には戦争証言を読み合わせたりしています。また、持

ち寄った情報をシェアします。原発のことや水俣のことやフィリピンの子供たちの支援や選挙のことなど様々です。お茶を飲みながらおやつを頂きながらわいわいとゆんたく（おしゃべり）しています。忘年会バージョンでは、道具持参で抹茶を立てて下さったり、ケーキを食べたり、替え歌の披露もあったり、ちょっと泡盛を飲んだりもして楽しみました。

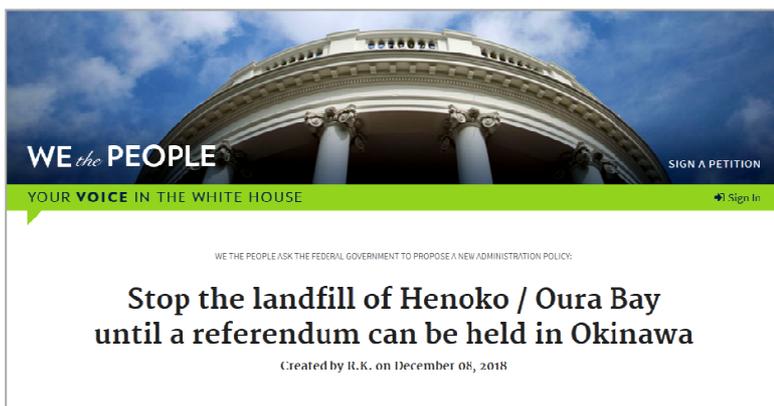
「今、何をすべきか」「どんなふうに平和を創りだしていくか」一緒に考えながら、思い描きながら今年も続けます。今年は、何か具体的な心のもったアクションを生み出せたらいいなと思っています！どうぞ気軽にご参加ください。ジュゴンと一緒にお待ちしています。

※開催日：1月31日（木）14時～、2月21日（木）14時～ 場所はSDCC京橋事務所です。

毎月の報告をブログにアップしています。ご覧くださいね。（関西 池側恵美子）



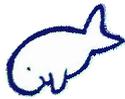
広がったホワイトハウス請願署名



県民投票まで辺野古の工事の停止を求めるホワイトハウスの請願署名が、短期間に20万筆を超えて集まっています。タレントのローラさんやクイーンのブライアン・メイさんの呼びかけもあって、どんどん広がりました。10万筆を超えると、ホワイトハウスが審査の上、見解を返答することになっています。署名をはじめたハワイに住む日系4世のロバート・カジワラさんに、ホワイトハウスから「慎重にメッセージを検討している」とメッセージが届きました。正式の「返答」が待たれます。

東京

映画上映会



「ZAN～ジュゴンが姿を見せるとき」

日時:2月23日(土)18時半開場 18時45分開演
会場:品川区立総合区民会館「きゅりあん」第4講習室(5階)
JR大井町駅前

参加費:1,000円
共催:SDCC、日本自然保護協会、イメージミル
問い合わせ:メール

aki.mimura@nifty.com
電話:090-4960-4247



沖縄に生息する絶滅危惧種のジュゴンを見ようと訪れた先は辺野古。そこで目の当たりにしたのは圧倒的な自然の美しさとそれを脅かす米軍基地建設だった。沖縄の豊かな自然の中での様々な発見、体験を通してジュゴンが暮らすこの海と共に生きていくことの大切さを考えるドキュメンタリー映画
2017年制作 監督リック・グレハン

大阪

ジュゴン訴訟報告会

&映画「ZAN」上映会

OKINAWA じゅごんを救え！！

～ 米国裁判所にジュゴン登場！ ～

日時3月17日(日)開場13:30
第1部13:45「ZAN～ジュゴンが姿を見せるとき」上映会
共催:SDCC、日本自然保護協会、イメージミル

第2部15:15ジュゴン訴訟報告会
講師:吉川秀樹(SDCC)国際担当
主催:SDCC

会場:ドーンセンター大会議室
(地下鉄、京阪天満橋駅下車)

資料代 1,000円

問い合わせ: 関西事務所 06-6353-0514

ZAN 上映会も
同時開催☆



《 関西今後のスケジュール 》

- ・2/21(木) じゅごん茶話会 14時～ 関西事務所
- ・2/16(土)、23(土) 沖縄県民投票連帯アクション
夕方 JR大阪駅前(詳細未定)



《 SDCC 今年の主なスケジュール 》

- ・**政府交渉** 4月19日(金)(予定)
- ・**第19回SDCC総会**
4月19日(金)18時半開場 19時開会
品川区立総合区民会館「きゅりあん」6階中会議室
(JR大井町駅徒歩1分)
*会員外の方もご参加いただけます。参加費無料です。
- ・**アースデイ東京** 4月20(土)、21日(日) 代々木公園
- ・**ジュゴンでトレイン!** 6月15日(土)(予定)
大阪環状線をひとめぐり 着ぐるみジュゴンやジュゴン帽で
楽しくアピールします
- ・**第14回じゅごんの里ツアー**
6月28日(金)～30日(日)(予定)
辺野古や沖縄の基地の現状を知り、地元の方々と交流、やんばる
の森や海の自然を満喫し、沖縄料理も楽しむ辺野古スタディツアー

新しい缶バッジができました!

お申し込みは下記事務所まで。ご注文お待ちしております。

1個200円(送料1～3個82円 4～7個92円)



1. ジュゴン(ピンク)

2. ジュゴン(水色)



3. ヤンバルクイナ(グリーン)

4. 正面ジュゴン(ブルー)

ジュゴンちゃんぶるニュース VOL.102 2019年1月29日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
TEL/FAX 06-6353-0514

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:
加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター
口座番号 00140-9-660199
他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 ○○八支店
口座番号 普通 8159084

ちゃんぶるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!